

I 「平和をつくる者は幸いです」：8。

1. 山上の説教の順序の恵み。

まず真の平和をつくるお方の恵みがある。：6の義（神との正しい関係）に飢え渴く者は、神に満たされる。その実として「あわれみ深い者」：7・「心のきよい者」・「平和をつくる者」に変えられ続ける。

2. 私達ではなく、まず神が真の「平和」をつくられる。驚くべき恵み！

①神との平和、和解。

「キリストこそ私たちの平和であり…隔ての壁を打ちこわし…十字架によって神と和解させるためなのです」（エペ2：14、16）。

「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことば（福音）を私たちにゆだねられたのです」（Ⅱコリ5：19）。

②この世にはない真の平和、平安を私たちの心に与えられる、つくられる。

「わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません」（ヨハ14：27）。

平和の主がいつも共にいてくださるから！自分の罪を正直に告白するなら神は赦して下さる。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」（Ⅰヨハネ1：9）。

神が愛し赦されている自分を自分でも赦し受け入れることから生まれる平安。それは、周りの人々に伝わる、影響を与える→神が、私たちを「平和をつくる者」に変え続けて下さる。

II 「平和をつくる」とは？

1. 真の平和、平安を与えて下さる真の神、キリスト、福音をまず自分自身が信じ、身近な人々、そして神が愛しておられる世界中の人々に伝える。主にある振舞い、愛、関係作り、香り、御言葉を語る事を通して。世界平和は、互いに裏切ってしまう条約によってではなく、世界を構成している世界中の私たち一人一人が、神の前に、あの人、この人ではなく、自分自身の罪（憎しみ、うらみ、ねたみ、みだらなこと、真の神以外のものを拝む偶像礼拝、盗み、スクリーンに映し出されるなら恥ずかしくてたまらない心の内側のもの、陰の良くない行為）を認め、それら一つ一つの罪を背負ってキリストが十字架にかかり、私たちが受けるべき罪への刑罰を身代わりに受け償って下さった事、主イエスを救い主、神と信じ神との平和を持つ事によってつくられて行く。

2. 「無慈悲、憤り、怒り（人を憎み、殺すことにつながる怒り。※怒りの内容を祈りつつ、言葉で相手を愛して伝える事は大切）、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい（内住の御聖霊に頼って）。

お互いに親切にし、心の優しい人となり（日々、心の優しいイエス様とつながり、深く交わっていると霊的養分が心に流れて来て心の優しい人に変えられ続ける）、神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように（なかなか赦せない人がいて苦しい時、この先行している驚くべき愛、恵みを決して忘れず、いつも思い起こしたい！罪人のかしらである私を神は今日まで赦し続けて下さった！そして永遠に変わらない愛でこれからも悔い改める私を赦し愛し続けて下さる！）、互いに赦し合いなさい。」（エペ4：31、32）。

3. 口と耳に気をつける。御聖霊が、自分の心、口、耳を支配して下さるように日々祈り求める。人と会う前、交わる前、相談を受ける前にも祈る。自分の口で人の悪口を言わないように祈り気を付ける。

「互いに悪口を言い合ってははいけません…隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか（ただ神の憐れみ

で赦された私達!）」(ヤコ4：11、12)。

人のあら捜しではなく、人を支える側に立ち、人々のために神に祈る者に変えられたい。もし、人の悪口や噂話を耳にする時、それを喜んで聞き、同意し(共感と同意は違うことをいつも自覚したい)、それにもっと自分の悪意を加えて他の人に言いふらす人は、平和をつくる人ではなく、平和を壊す人である。私達自身が、気をつけたい。神に祈り聖霊に支配された耳をもって聴く人は、片方の言い分で事の真実をすぐに決めつけたりしない。まず、すべてを見、正しく知っておられる神に祈り委ねる。もし神がもう片方の言い分を聴くように導かれるなら、その時を祈りつつ持つ。その時も、自分(自分も弱さ、失敗がたくさんある)が何か偉い者であるかのように勘違いすることなく、祈りつつ対処する。

「何についても、先走ったさばきをしてはいけません」(Iコリ4：5)。

人からの相談ではなく、自分の事では→「あなたがたは、自分に關する限り(あなたの側では)、すべての人と平和を保ちなさい」(ローマ12：18)。自分が過ちを犯し相手にお詫びすべきなら、心から相手に謝罪する。しかし、相手の人が赦し受け入れてくれるかは、その方の分なので、すべてをご存知の神に委ねる。神が働かれる。

①神の分、②自分の分、③人の分がある事を、しっかり覚えたい!

Ⅲ「その人たちは神の子どもと呼ばれるから」：8。

1. 神が、御自身の子として認めて下さる。

平和をつくる人は、神の子であり、その御父に似ているという意味。御父は「平和の神」

→ヘブル13：20、ローマ15：33、16：20。

キリストの誕生(クリスマス)の意味は何か?それは、神が聖、義であると同時に平和の神であるから。これが、御子をクリスマスにこの世に救い主として遣わして下さった理由。

2. 戦いはどこから来る?私たち人間の罪から、悪魔から来る。それで、この世に不一致がもたらされた。しかし、ほむべき平和の神は、御自身の威厳に固執せず、平和をつくり出すために御子において御自身を卑しくされた。そして、ののしられても、ののしり返さず、最高のへりくだりの十字架の死で平和を確立された。私達が、この平和の神を信じ、内住の聖霊により、自分のこだわり、権利に固執せず、平和をつくるなら御父に似る「神の子と呼ばれる」。

3. 御子が御自身の神という権利に固執せず人となり(クリスマス)、十字架で死なれたのは、私たちが、神との平和を持つため、心の平安を持つため、他の人々との間に平和を得るため。

「キリストこそ私たちの平和であり…ご自分の肉において、敵意を廃棄された」(エペソ2：14、15)。

神が、私たちを、真の平和をつくる者へ変え続けて下さり、真の平和をつくることに用いてくださいますように!